

平成 28 年度 第 2 回 吹田市総合教育会議 議事録（概要）

日時：平成 28 年（2016 年）7 月 21 日（木）15 時 30 分～17 時

会場：吹田市役所高層棟 4 階 特別会議室

出席者：後藤市長、宮下教育委員長、大谷委員長職務代理者、鈴木委員、河内委員、谷口委員、梶谷教育長、春藤副市長、平田教育政策室主幹、荒木指導室主幹・指導主事、岡筋指導室主幹・指導主事、櫻井指導室主幹・指導主事、藤井教育センター主幹・指導主事、大城教育センター主幹・指導主事、平田教育センター主幹

事務局：稲田行政経営部長、羽間学校教育部長、川下地域教育部長、橋本児童部長、服部教育委員会理事、赤阪学校教育部長兼教育総務室長兼務、島田学校教育部長兼指導室長兼務、木戸地域教育部次長、岡松企画財政室長、野田教育政策室長兼行政経営部兼任、上村教育政策室参事兼企画財政室兼任、横山教育政策室参事兼企画財政室兼任、各務教育政策室主査兼企画財政室兼任、杉山教育政策室係員

傍聴者：なし

案件名：1 吹田の学校教育の現状について

2 その他

資料：別添のとおり

議 事：

○後藤市長 （開会のあいさつ）

○事務局 （出席者の説明及び資料 1 運営要領の改正について説明）

○春藤副市長 （あいさつ）

○後藤市長 本日の流れ等について事務局から説明をお願いしたい。

○事務局 前回の会議において、本市の教育に関する SWOT 分析を行った結果をもとに協議を進めていただき、その中で学校教育の現状をより深く知るために、若い世代の現場の教員の声が聴きたい旨の御発言をいただいた。またこの間、文部科学省から教員の長時間労働の実態と、その解消に向けた取組や支援策についてまとめた「学校現場における業務の適正化に向けて」という通知が交付された。本日はこれまでの総合教育会議の協議や国の動きも踏まえて、また、SWOT 分析も参考にしながら、今年 3 月まで学校現場に勤務しており 4 月から市教委事務局に採用された職員に、吹田の学校教育の現場について意見聴取を行い、今後の参考にさせていただきたい。

○主幹・指導主事 （順次、自己紹介）

○後藤市長 これまで教育についていろいろ議論してきたが、もっと現場を知らなければ課題が解決できない。本日は教育現場の課題について、皆さんの経験や主観はもちろん、全教員を代表して忌憚のない意見を出していただきたいので皆さんの発言は会議録には残るが誰が何を発言したのかはわからないように配慮するので、遠慮なく発言してほしい。

い。皆さんとは双方向のコミュニケーション、対話をしたいと思っている。本市の総合教育会議は中身の濃い議論を続けてきた。実のある会議にしたいのでよろしくお願ひしたい。現場が今どうなっているのか、とにかく忙しいと聞いているが、昔と今では何がどう変わってきたのか、是非お聞かせ願ひたい。

- 主幹・指導主事 半数以上が若い教員で、仕事に慣れていなくて、いろんなことを吸収しようとして業務に追われるうちに時間が遅くなるというのはよくあった。学校業務を終えたあとで、子どもに何かあればすぐ対応して、授業の準備とか他の仕事がどんどん膨れて、そういうかたちで業務が増えていく。
- 谷口委員 勤めていて、教頭先生を含め指導していただく、いろんなことを教えていただく上の先生方が少ないと感じるか。
- 主幹・指導主事 民間経験があり、中途採用されたが、現場では世代が真ん中より上だった。ベテランが何人かいたが、聞ける機会は少なかった。
- 谷口委員 企業から教員になって、上の世代が少ないことに対して、どうしたら効率よく上の世代の方を活用するように対応できると思うか。
- 主幹・指導主事 ベテランがいる間に、経験等を吸収し、また若い世代に伝えられるよう仕事で覚えていく。
- 梶谷教育長 教員の勤務時間は17時までが定時だが、実際に定時で帰れる人はいるのか。またそういう人はどういった仕事ぶりか。
- 主幹・指導主事 定時で帰るのは事務職。
- 梶谷教育長 教員は残っているということ、そのあたりの状況を聴きたい。
- 主幹・指導主事 若い教員が増えていて、中核になる教員もほぼ30代でその教員自身が学ぶための時間も重なっていく。事務処理、情報処理をしようにもパソコンが足りない。保護者が得る情報が増えるに従い、ニーズや不満・不安が増え、対応する学校側もまた会議が必要になる。そういった点で多忙感というのが出ている感じ。
- 宮下教育委員長 会議と言うのはどれくらいの頻度で行われているのか。
- 主幹・指導主事 毎日の予定で会議が無い日があると、「えっ、大丈夫。」と思うくらい。
- 大谷委員長職務代理者 それを上手く効率化はできないのか。
- 後藤市長 どんな会議なのか。情報共有のためか、議決のためか。
- 主幹・指導主事 職員会議も各分掌への研究部会、検討会議、所属の部会、任意の学習会など様々ある。
- 後藤市長 全国共通なのか、吹田が多いのか少ないのか。
- 羽間学校教育部長 ほぼ全国共通。吹田は研究組織がしっかりしているので、情報共有や発信の場は他市に比べて多い。
- 後藤市長 若い教員が多い。会議が多い。その他に何か。
- 主幹・指導主事 若い教員が多いが故になかなか決断できない。会議を短く効率よくしようという意識を学校の中に根付かせないと、いつまでたっても短くならない。

- 後藤市長 企業での会議を短くする工夫、アドバイスを何か。
- 河内委員 集中力が続く限界の2時間以内にするとか、テーマを絞って会議を行うとか。
先日、テレビを見ていて教員の多忙化が取り上げられていて全国共通の課題であると再認識した。保護者や社会のニーズがすべて教員に向かっているが、もっと予算をつけて、教員でなくてもできる仕事を振り分けていくというのも解決の一つではないかと思う。
- 後藤市長 雑務というか、事務職員でもできる仕事があるんじゃないか。また部活動の話も含めて少しお聞きしたい。
- 主幹・指導主事 正式な勤務時間は8時30分から17時だが、課外クラブの朝練があるときは7時に出勤して、普段でも子どもたちが8時頃に登校してくるので、その時間には安全管理の面もあって出勤している。一日授業をして終わって会議の無い日は放課後、練習につきあって、そうでない日は会議があったり、保護者対応があったり、子どもに関わることを優先的にこなしてから、教材研究や自分の仕事にかかる。課外クラブの取組方については、あくまで課外なので、各学校の体制や各先生方により違いがあると思うが、課外クラブが、居場所になっている子どもがたくさんいることを実感している。ただ、多忙感でいうと土曜に出るとか遅くまでやって、という部分がしんどいと思う人が出てくるものわかる。
- 後藤市長 有給休暇はどう取得するのか。
- 主幹・指導主事 夏休み中に夏期休暇と年次休暇を少し取れるくらい。夏休み中も普段は出来ないような研究会に行くとか、授業の研究をすとかしている。担任を持っていたら平日に休暇なんて絶対に取れない。課外クラブをもっていると夏休み中に試合があるので、試合とか練習に時間がかかってくる。
- 鈴木委員 小学校だから課外クラブ？中学校の部活も課外ではないのか。
- 宮下委員長 小学校には授業の一環でクラブ活動というのがあるので、それと区別するために、課外クラブと呼んでいる。
- 後藤市長 若い先生が多いということだが、皆それを覚悟の上でなっているのか、なっってから驚かれるのか。
- 主幹・指導主事 初任者の指導に行った際に「授業以外にこんなにあることがあるとは思わなかった」という感想があった。
- 後藤市長 そういうことは教育学部の授業の中で出てきたりしないのか。
- 主幹・指導主事 事務的な処理みたいなことは大学では教えてくれない。
- 鈴木委員 教育実習で、現実の先生の姿を垣間見ることはできるのか。
- 主幹・指導主事 実習生も以前に比べて、指導案を書いたり、模擬授業をしていたり、より実践的になっているが、庶務的なことは教わって来っていない。
- 宮下委員長 写真代などの現金は、事務ではなく現場の先生がチェックしているのか。
- 主幹・指導主事 先生が集めて、そのまま業者に渡している。
- 後藤市長 集金袋にしても、そこから子どもや家庭の情報が得られるとなると、どんな

業務を事務職員に渡すことができると思うか。

- 主幹・指導主事 保護者に配布するプリントの大量印刷とか。
- 後藤市長 朝の声掛けとかとか安全確保の面では任すことできないか。
- 梶谷教育長 中学校については、生徒指導の観点から校門に立つというのものもある。
- 後藤市長 それは超過勤務になるのか。
- 主幹・指導主事 そういう意味では超過勤務になる。
- 後藤市長 勤務時間よりも早く来ないといけないのか、と言う人はいないのか。一部でも半分でも、その割合を知りたい。
- 主幹・指導主事 早く遅くでいうと、遅く来たから楽できるという概念は無いと思う。勤務時間中、子どもがいる間は自分の仕事ができるということは絶対はない。休憩時間もほとんどない。なので早く来て、仕事をしてあげばその分、別の仕事に時間を費やせる。昔は持ち帰り残業もあったが、個人情報がかばわれるようになって、今はそれもなくなったので、できるだけ前倒して仕事するような風潮になっている。
- 後藤市長 私立中学校はどうなのか。
- 河内委員 もっとじゃないかと思う。私学は特色のある教育、というのがあから。
- 主幹・指導主事 朝のあいさつ等を先生以外に回すことは可能か不可能かというところだが、私たちにとっては子どもたちの表情を見る機会、心情的なものを察知するツールになるので、任せたくないという思い。家庭の事情で帰らざるを得ないけど、子どもの対応や学年の話し合いにつきあいたいという苦痛もある。
- 主幹・指導主事 忙しいときが必ずしも辛いとは限らない。辛いと感じるときは孤独を感じる時。先生も子どもと同じで認められたいと思っている。頑張りを誰かが評価してくれるのと、「誰かできる人がやればいい」という態度でいられるのでは全く違う。それはクラブの指導でも同じこと。大学で教員になるための知識は身につけるが、何年か経つと人と人とが協力し合って学校全体をまわしていくんだというのがわかってくる。若い先生がたくさんいるということは何年かしたら産休に入る先生もたくさんいるということで、やっと一人で何とかできるようになると直ちに中堅として学校をまわしていかないといけないというサイクルの短さが多忙感につながっているのかなと感じる。
- 後藤市長 感覚としての多忙感と物理的な時間というのがあると思う。クラブで次の試合勝てば決勝、みたいな時に家族の事情で板挟みになるとか、そのあたりはどうか。
- 主幹・指導主事 部活動を熱心に指導している先生で、結婚して子どもができたなら「仕事と家庭どっちが大事なの」と板挟みになっているという話をよく聞く。
- 大谷委員長職務代理者 今の先生は2、3年で急速に成長することが求められている。その現状がしんどいのかな、と思う。ベテランの先生は家族と仕事との時間の割り振りの中でもうまくメリハリをつけているのかなと思う。若い先生にいろいろ求めるのは難しく、2、3年という時間が短すぎるというのが重たい。
- 梶谷教育長 学校現場での45分休憩はきちんと取れているのか。

- 主幹・指導主事 誰がいつ休憩を取るのかというのは決められてはいたが、実際にはトイレに行くついでに職員室でお茶を飲む程度で、目が離せないクラスの担任を持っている時はそれもままならないくらい。45分間きっちり取るというのは難しい。
- 梶谷教育長 それは小・中どちらであっても関係ないのか。
- 主幹・指導主事 中学校でも担任を持つと、昼休みは弁当を教室に持参して子どもと一緒に食事をしたり、校内を巡回したりしていた。
- 鈴木委員 30年前と比べてどれだけ忙しくなっているのか。
- 羽間学校教育部長 今の現場を見ていると、確かに自分たちがやっていなかったような仕事が事務的な部分を中心に増えているのは確かだと思う。
- 鈴木委員 問題はその増えた仕事を本当に先生がやらないといけないのか、誰かに任せられるのか。負担感を減らそうと思ったらそのあたりを解析していく必要がある。
- 羽間学校教育部長 事務的な部分、保護者対応や子どもの対応でも昔とは全然違う。ここまでやらないといけないのかというくらい増えている。それを教員がやるのかどうかというところの色分けをこれからしっかりやっていかないといけないと思う。
- 鈴木委員 教員になった方の想い、子どもたちに接して、子どもたちの成長を見ることが自分たちの一番の喜びだという気持ちは、今も昔も変わらないと思う。それでもやはり教員の負担が多いというのが全国的な流れになっていて、今の先生方は昔を知らないから、こういうもんかと無理してやっているのか、それとも時間を工夫してもっと子どもたちと接する時間を増やして、先生方の想いを達することができるようにするべきか、この辺を明らかにしていく必要がある。
- 後藤市長 それを明らかにする責務を持っているのが、この総合教育会議かと思う。我々が現場の意見、話をお聴きして、しっかり見て、情報発信しなければいけないと思っている。クラブ活動や課外授業というのが一切無くなったらどうなのか。日本では伝統的に学校でスポーツをやるのが当たり前になっているが、イギリスとか海外ではやっていない。将来的にプロコーチを入れるであるとか、地域に任ずであるとか、そうやって先生方はクラブ活動を手放すことはできるのか。
- 主幹・指導主事 クラブ活動が多忙感を与えているというのは、確かに大変なだけでなく、地域との関わり、子どもたちとの関わりという機会が薄くなってしまいう懸念があるので、クラブ活動はあった方がいいと思う。
- 主幹・指導主事 クラブ活動が子どもたちにとって生きがいになっている、そういう可能性がある限り、クラブ活動はあるべきだと思う。反面、保護者の期待に応えないと、という責任感で携わっている教員にとっては、熱が入り過ぎた結果、自分を抑制できなくて手を上げたり、厳しい言葉で叱責したりという結果につながることもある。できるならば、クラブ活動を無くすのではなくて、全市一斉にクラブの休息日を設けるとかがあればよいと思う。ただ、部活動を休ませてくださいね、という推奨だけではジレンマによって休ませられないという結果も有りえると思う。

- 後藤市長 熱心にクラブ活動をやる先生がいる一方で、やらない先生もいると思う。嫌々やるくらいなら、やらない方がマシだと思うが、実際にそういう「やらされている感」みたいなことはあるのか。
- 主幹・指導主事 私の経験でいうと、課外クラブを楽しく続けて来られたのは複数顧問で、役割分担を決めたり、お互いにカバーし合いながらやっていこうという気持ちでやってきたから。一人の素晴らしい指導者がいるというのは学校にとっても子どもにとっても素晴らしいことだが、異動すると途端に指導者がいなくて続けられないというのはダメで、その指導者がいなくなった後も続けていけるように、チーム学校として、組織として考えるべきではないかと思う。
- 河内委員 複数顧問ということだが、その指導者の中に教員以外の、地域の方とか保護者とかを入れるのは可能なのか。
- 主幹・指導主事 地域の人材を活用するというのは子どもたちの成長にとってもすごくいいと思うが、その方がいるからその場に教員がいなくてもいい、ということにはならないので、負担軽減につながるという話にはつながらないと思う。
- 後藤市長 日和見的に、突然とか不定期に教えに来られても、学校現場は困るだけだと思う。
- 主幹・指導主事 経験者の方、外部の方が指導に来られると、子どもたちにとっては良い刺激になって、子どもたちもそれはそれで面白がっていた。
- 後藤市長 今、若い先生が多いというのは団塊の世代の影響で、あと10年もしたらまた採用の山、谷と同じことを繰り返していくわけですね。これは何とかならないのか。
- 梶谷教育長 吹田がどう、という話ではなくて、山、谷を繰り返すというのはどうしてもあって、採用する大阪府の方でもこの山、谷の間をどうにかするために正式採用ではなくて講師で埋めて、何とか計画的にということを考えている。
- 後藤市長 その講師の方も、勤務時間とかは傍から見ても区別つかないんですか。
- 梶谷教育長 同じようにクラブ活動をもって、同じように夜遅くまで仕事されているというのが実態です。
- 谷口委員 1クラスの人数を1割とか2割減らせば、現場は本当に楽になるのか、そのあたり本当はどう思っているのか聴きたい。
- 主幹・指導主事 1クラスの人数が10人違うだけで全然違う。宿題の丸つけするにも通知簿書くにも小さな積み重ねでも、作業時間も短くなるし、事務処理量が全然違う。それは実感する。
- 主幹・指導主事 物理的な量もそうだが、子ども一人ひとりかけられる時間、きめ細やかにできる時間が増えるので、クラスが落ち着く可能性が非常に高くなって、クラスが落ち着いていれば、学年や学校全体に対しても何か起こったときに招集されるような会議や情報共有のための時間も、上手くいかなかった学級に対する取組も減るので、精神的な負担感も含めて、物理的な量が減った分の2倍、3倍の効果があると思う。

- 後藤市長 今、市内には単学年単学級の学校もあればパンパンの学校もあるが、そういうのも学校の雰囲気や先生の負担感は違うものか。
- 主幹・指導主事 大きい学校にはたくさんの先生がいるので、アドバイスもらったり授業を見させてもらったりがしやすいと思う。また学校行事の準備も人数がたくさんいれば作業量が違う。ただし卒業式がすごく長くかかるだとか、校外学習での集団行動の取り難さみたいなものはある。
- 梶谷教育長 教頭、管理職の立場から見た時に、教育委員会あるいは市に対して、施策等含めて何か望むことはあったか。
- 主幹・指導主事 自分の分身が欲しいと思った。教頭というのは教える頭おし かしらと書いて教頭なのだが、本来の仕事に行きつくまでにしなくてはならないこと、事務量がたくさんあるので、大規模校だと二人くらい教頭がいるな、と思う。自分の事務量が減れば、他の先生が子どもに向き合える時間を作るために、自分にできることをやってあげて、その先生の多忙感が無くなって、その先にいる子どもたちが育ってくれたらいいな、という思いがある。
- 宮下委員長 自分の分身がいれば一番いいんだけど、それはできないから代わりに例えば事務職員みたいな人がいれば、それはそれで楽になるのか。
- 主幹・指導主事 教頭の仕事と事務の仕事のラインを明確にできていれば楽になると思う。今、現場ではそれが明確化されていなくて、雑多、隙間の仕事、これは先生の仕事じゃないな、というのが全て教頭にふりかかってくるので。
- 後藤市長 今日の会議の目的は、学校内部の問題を我々が認識するというところにあった。こちらは事務職がいれば現場は楽になるんじゃないか、というような議論をしていたが、こちらが良かれと思って、現場とずれるような提案をするのではダメだと思うので、逆に現場の方から本音で、アイデアを頂いて、予算なり人なり、吹田オリジナルな制度、方法というのができないかと思う。これからも折に触れ、御意見をお聴きしたい。次の案件その他について、事務局から何かあれば。
- 春藤副市長 その前に 1 件御報告を。先の市会で議員より、日本人のアイデンティティに関して、総合教育会議の中で取り上げていただきたい旨の要望をいただいている。
- 後藤市長 わかりました。改めて事務局より、何かあれば。
- 羽間学校教育部長 事務局より 2 点、御報告がある。まず 1 点目として、これまで本会議の中で協議を重ねてきていただいた「いじめ防止基本方針」について 6 月教育委員会会議でその内容が承認された。今後は基本方針を踏まえ、市と教育委員会、学校、家庭、地域、関係機関と連携をより一層強化し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底していく。また、本基本方針の周知のため、市のホームページ等で公表する予定である。2 点目として、次年度の教育委員会の施策について、吹田市教育大綱及び「わが都市すいたの教育ビジョン」の実現に向け、これまでの本会議の協議や意見聴取の結果とあわせて、勤務時間の適正化推進対策プランの検証、見直しを行い、より学校教育の充実

に向けた教育施策を講じるよう検討を進めているところであり、今後も本会議において、御意見等をいただきたいと考えている。

- 後藤市長 他になにか。無ければ事務局から次回の日程について。
- 事務局 次回の日程は12月20日（火）をお願いしたい。
- 後藤市長 では次回は12月20日（火）に。次回は今日頂いた貴重な現場の意見をもとにSWOT分析の中身をもう少し整理して、熟度をあげていくことが課題だと思う。この会議は吹田の教育をどう支えていくかという視点で常に議論しており、そういう意味で逆に現場からの提案をいただきたい、お待ちしております。今後ともよろしくをお願いしたい。